

住民自治協議会あてアンケート調査結果（集計）

<p>質問1 【基本施策1-2関連】</p> <p>社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか</p>		
回答1	はい 23地区	いいえ 9地区
主な取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関係機関と共同で毎月オレンジカフェを実施。 2 NPO 法人、学校長による講演会を開催。フィーリングジャズバンドの公演を合わせて行うなど、参加して楽しめる内容に工夫した。 3 「地域づくり」「認知症」等をテーマに、毎年講演会やグループワークを行っている。（複数） 4 住民福祉大会を開催し、講座やパネルディスカッションを実施。（複数） 5 「認知症」をテーマに講演会を行い、住民自治協議会役員、保健師等で勉強会を実施。 6 介護センター、地域包括支援センターへの視察研修の実施。 7 「体操サミット情報交換会」を実施、グループ発表やフロアトークを行った。 8 大学と連携し、講演会の実施、福祉施設を見学。（複数） 9 中学校、高校、NPO 法人、地区のグループが関わり、地区のふれあいまつりを実施。 10 保育園、小学校、中学校、高校の生徒と共に、長寿を祝う集いを実施。 	
「いいえ」の理由・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在、学びの場を設ける必要性がない。 2 住民からのニーズがない。 3 実施するには、かなりの労力が必要なため、取り組むのをためらったのかと思う。 4 参加がみこめない。 	

<p>質問2 【基本施策2-2関連】</p> <p>福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか</p>		
回答2	はい 29地区	いいえ 3地区
主な取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉施設の推進会議に出席。(複数) 2 生活支援体制整備検討会において、地域ニーズを含めた情報交換を実施。(複数) 3 地区福祉関係者、地域包括支援センター、保健センター、医療関係者等と情報交換会を実施。 4 民間企業による健康セミナー等を通じ、地区内福祉関係事業者との連携、住民福祉の向上に協力する機運が上がってきている。 5 支所と地域包括支援センター主催によるネットワーク会議。住民自治協議会、地域福祉ワーカー、地域たすけあい事業コーディネーターが運営に協力している。 6 地区で「ふくしネットワーク」を設立。地区の介護保険事業者等も構成員として参加し、ネットワーク会議を開催。 7 生活支援体制整備事業検討会に福祉サービス事業者が参加。ニーズの把握、情報交換の場として活用。 8 中学生以上を対象にアンケート調査を実施し、報告会を行った。 9 地域ケア推進会議の開催。 	
課題 「いいえ」の理由・	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民自治協議会は長野市と協働する組織。福祉サービス事業者の活動を支援することはむしろ、慎むべきと、それぞれの企業が営業活動の一環として努力すべきことと思う。福祉サービス事業者とはどの方たちを想定しているのか？地域の福祉関係者とは、福祉ワーカー、福祉部会等の住自協関係者ほか、民生、区の役員、消防団等も入りますが誰を想定しているのか？ 	

<p>質問3 【基本施策2-2関連】</p> <p>民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか</p>		
回答3	はい 27地区	いいえ 5地区
主な取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民自治協議会だより、広報誌、ブログ、地区地域福祉活動計画において、活動内容を住民に周知。(複数) 2 お茶飲みサロン、福祉懇談会に民生・児童委員等に参加してもらい紹介している。(複数) 3 区長、民生・児童委員、住民等が参加する地域福祉懇談会において、グループワークを実施。 4 研修会において説明。 5 各地区を訪問し、区長、民生・児童委員等と福祉に関する意見交換を実施。 	
由・課題 「いいえ」の理	<ol style="list-style-type: none"> 1 必要性を感じていないため。 2 周知方法が分からない。 	

<p>質問4 【基本施策3-1 関連】</p> <p>隣近所において、お互いに気にかける関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか</p>		
回答4	はい 32地区	いいえ 0地区
主な取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 区内の地区ごとのお茶のみサロン、健康サロン等のサロン活動。(複数) 2 「はつらつ体操」等、健康体操の実施。(複数) 3 ふれあい会食の開催。 4 要援護者に対し「声かけ」を兼ねて「紙類等回収」支援の実施。 5 通いの場の設置 (カラオケ等のグループ活動)。 6 「向こう三軒両隣」精神のような、支え合いサービスを行うなど隣近所で助け合っていることがうかがえる。 7 近所の方が気軽に寄れる「まちの縁側」が個人宅で行われるようになっている。 8 自主的に趣味の会など、定期的集まって情報交換を行っている。 	
課題 「いいえ」の理由	<ol style="list-style-type: none"> 1 ふれあい会食で、声をかけるが独居の老人等なかなか参加してくれない。 2 サロン活動に行く手段がないため、役員等による送迎が必須となるところが多い(ただし、参加者の楽しみであるとともに役員にとっても「やりがい感」につながっている。 3 ご近所のお茶のみが少なくなっている。 	

<p>質問5 【基本施策3-1 関連】</p> <p>地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください</p>	
<p>主な取組内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害時要援護者の支援事業。災害時に、要支援者に対して誰が対応するかマッチングを行っている。救急医療キットの設置指導(複数) 2 お茶のみサロン、ふれあい会食等、通いの場の創設。(複数) 3 高齢者宅の訪問を各区で行っている。(複数) 4 要介護3以上の在宅寝たきり状態の方々のお宅を福祉委員が訪問し、寝たきり助け合い事業として見舞金をお支払いしている。 5 「わんわんパトロール隊」を組織。愛犬と散歩しながら地域内のパトロール活動を行っている。 6 「見守りカード」の発行を検討中。 7 地域福祉懇談会の開催。(複数) 8 小学生の登下校時の見守り活動。(複数) 9 カーテンが開かない、電気がつかない等、ご近所が注意して見ている。(複数) 10 非常時の安否確認ルートを設定している。 11 往復はがきによる一人暮らしの安否確認を登録制により実施。 12 アンケート、座談会、住民による寸劇等を通して意識啓発を行っている。
<p>課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民がごみ捨てや雪かき等にご苦労されていることが分かり、ご近所での助け合いが活性化すれば困りごと減ると考えられる。どうアプローチしていくか具体的な方策を検討する必要がある。 2 区によって、区内の体制構築を行っているところがあるが、全区での構築までは至っていない。 3 特に行っていない。 4 見守りに関するチラシ作成を試みたが、記載内容に関する意見がまとまらず、完成に至らなかった。

質問6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を紹介してください

(「重点的な取組」以外について地区における取組の把握をし、基本施策体系ごとに整理することで「見える化」を実施)

地域福祉を推進するための基盤をつくる 基本目標1	1-1 地域の課題を地域で解決するための取組の推進		取組数 31
	主な取組	1 地域福祉懇談会の開催 2 区単位の「協議体」組織の設置 3 防災マップ、支え合いマップの整備 4 地区で実施した「支え合い地域づくり」アンケートに基づく課題整理 5 地域での介護予防活動グループの立ち上げ	
	1-2 学び合い、共に育つ「福祉共育」の推進		取組数 13
	主な取組	1 小学校児童、教職員及び諸団体が参加した防災訓練の実施 2 中学生、福祉事業所、地区役員が参加した認知症について学ぶ交流会の実施 3 小学生から高齢者まで多くの住民が参加した世代間交流事業の実施 4 中学生、高校生による地区福祉施設でのボランティア活動	
	1-3 地域福祉を推進する担い手や資源の創出		取組数 15
	主な取組	1 認知症サポーター講座の開催 2 はつらつ体操実施の自主グループが立ち上げ 3 通いの場の参加者によるボランティア活動の開始 4 子どもたち、高齢者のためのボランティア養成講座の実施	
	1-4 地域福祉を推進する組織と場づくり		取組数 26
	主な取組	1 お茶のみサロンを実施しており、今後「まちの縁側」にも取り組む予定 2 地区で行われている活動の情報収集・発信する場づくり 3 区単位の「協議体」整備の推進	

一人ひとりの思いをつなげ、様々な担い手が連携できる仕組みをつくる 基本目標2	2-1 支援する人が孤立しない仕組みづくり		取組数 3
	主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康運動促進に関する各種補助金申請支援 2 民生・児童委員の役割についての住民理解促進 3 介護者の集いの実施 	
	2-2 多様な人や組織が連携・協働する体制をつくる		取組数 20
	主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 行政、区役員と協力団体参加による地域情報を共有するための部会設置 2 福祉関係団体（地区、遺族会、介護保険事業所等）による合同研修会 3 事業所、医療大学等とのネットワーク会議 	
一人ひとりの思いを受け止め、福祉サービスや支え合い活動を充実する 基本目標3	3-1 地域で見守り・地域で支える体制の充実		取組数 53
	主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種サロン活動の実施 2 独居高齢者の見守り活動 3 「ご近所支え合い・見守りガイド」の活用によるネットワーク強化 4 住民間でのあいさつ運動 5 困ったときはお互い様の気持ちで生活する基盤整備 	
	3-2 どんな悩みも「受け止め」「つなぐ」相談体制の充実		取組数 8
	主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者向けの子育ての悩みに関する子育て講座の開催 2 認知症カフェにおける話し合い、日ごろの悩み相談の場の設置 	
	3-3 誰もが安心して生活できる支え合い活動の充実		取組数 23
	主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉懇談会の実施 2 地域たすけあい事業の実施 3 要支援者に対する支援体制整備 4 福祉自動車、家事援助 5 雪かき隊ボランティア活動 	
3-4 安心して福祉サービスを利用するための環境整備		取組数 5	
主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉推進員等に対する各種研修 2 地区住民と関係機関によるネットワーク会議 		

各地区の地域福祉推進に関する意見・課題等（自由記載）

- 1 地域福祉は大切なことと思うが、ご近所づきあいが薄れている現代においては、どのように進めていけばよいのか悩む。人の気持ちが前提にあるので、強制できるものではない。人は暖かい、人付き合いは良いなどと思ってもらいたい。しかし、近所づきあいは億劫な面もある。思いと、相反する現実が、地域にも自分の中にもある。
- 2 福祉ワーカー、生活コーディネーターの仕事が年々増えてきている。本来行政がすべき仕事まで地域中心という名目でやらされている感が強い。補助金の増額による福祉ワーカーの増員を検討願いたい。
- 3 健康運動促進事業補助金の申請が複雑すぎて、とても町の福祉推進員では申請できない。もっと簡略化して欲しい。
- 4 福祉活動には、皆さん熱量に差がある。
 例えば、① はつらつ倶楽部（健康教室）の重要性を研修会で理解してくれた福祉推進委員会長が自治区に持ち帰り提案すると委員は反対。まずは、お試しからとお話しても納得せずそのまま実施できずに。仕事が増え負担になるのが嫌なのが理由との事。
 ② ふれあい会食についても、手作りの食事が負担。もし食中毒や何かあったら誰が責任を取るのか？検便しなくていいのか？と福祉推進委員からの意見と参加者からの意見は手作りの温かい食事を食べたい。お弁当ではいつも食べているから味気ない。どこかに連れて行って欲しい。などの意見。双方の意見に解決策が難しい。
 ③ 講座についても、どのように周知したらいいのか？ 参加人数が、その時によって違う。
 参加しやすい参加してみたい内容はどうしらいいか？このことについては、サロンなど地域の交流に、家から外に行かない人をどのように連れ出すかも役員が抱えている課題。
- 5 高い福祉力の構築には困難さを感じる。困難というより「無理」だと感じる。福祉推進員（役員体制）も区によって違うが、役員の任期が1年、長くても2年と交代していく。活動を理解しかかったところで交代となってしまう。役員のなり手もない状況もある。
 また、福祉ワーカーとは名ばかりで、福祉を学んだ訳でもなく、理解している訳でもなく、こうあるべき姿も描けない。目の前の仕事に全力で向き合うだけ。やりすぎると疎まれる。そして、今の賃金では社会的に認知された資格をもったワーカーなんて到底雇えない行政の事情もあるのだろう。それではダメでしょ！っていつも思ってしまう。

<p>各地区の地域福祉推進に関する意見・課題等（自由記載）</p>	<p>6 やる気のある人が先頭に立ってやっていくことが大事。</p> <p>7 身近なことを、少しずつプラスαして実践していくこと。</p> <p>8 認知症サポーター養成講座を開催したことで、今後、特にオレンジカフェを開催する事となった場合のボランティアとして、また、日常生活内でも認知症者に対する支援が行える知識、そのきっかけは得られたと思う。・認知症サポーター養成講座を開催したことで、今後、特にオレンジカフェを開催する事となった場合のボランティアとして、また、日常生活内でも認知症者に対する支援が行える知識、そのきっかけは得られたと思う。</p> <p>9 当地区では、推進委員を降りてもボランティア協力員として支援をいただける方には支援していただいている。声をかけると大勢の皆さん快く引き受けて下さり、大変ありがたく思っている。</p> <p>10 小さい地域でさえ、20地区で地域福祉推進に温度差や格差が生まれている。逆に、小規模ゆえの強みを活かした助け合いが出来ているというのも事実。</p> <p>11 地域福祉を考えるときに、ニーズ調査をするが、話を聞くと、①今困っている方と、②今は大丈夫だけど、数年後が不安だ、と思っている方が混在している。その辺をよく考慮した地域づくりが必要なのだと感じている。 ①今困っている方を助けつつ、②少し先の未来を見据えた課題に対応できたらと思う。それには、聞く力（聞き方）も必要になってくるような気がする。</p> <p>12 昨年度は、第三次地域福祉活動計画策定や住民による劇団を立ち上げ寸劇を上演した。計画づくりでは、中条の歴史、現在、未来をつなげていこうという声があがった。課題はたくさんあるが大事にしたいところの共有が委員のなかでできたと思う。</p> <p>13 地域の話合いから、支え合いアンケートを実施した。困ることもある反面、何かしたいという声も多く寄せられた。その後、座談会の開催、そして、頼んだり頼まれたりの気持ちを育むために、住民の劇団による寸劇、ワークショップを開催した。おなじみの方がステージで演ずる劇を観た人たちが支え合いについて考える機会になったと思う。</p>
-----------------------------------	--